

資 料 提 供

令和7年7月22日

課 名：商工労働総務課

担 当 者：藤原

内 線：3310

直通電話：082-513-3380

令和7年度中小企業振興功労者表彰（知事表彰）について

1 概 要

中小企業基本法公布の日（昭和38年7月20日）を記念して、県内の中小企業者及びその関係者で、多年にわたり事業に精励し、経営の改善・技術の向上等に積極的に取り組み、その業績が顕著であり、他の模範となるべき者を知事が表彰する。（昭和53年から毎年度実施）

2 被表彰者

4名

※詳細については別紙1のとおり

3 表彰式

(1) 日 時 令和7年7月25日（金） 15：00 から

(2) 場 所 県庁北館2階 第1応接室

4 その他

表彰式は、被表彰者及びその関係者のみの出席となります。

※報道関係者の方は、入場することができます。（撮影位置は別紙2のとおり）

令和7年度 中小企業振興功労者表彰（知事表彰）被表彰者略歴（4名）

〔年齢順〕（R7.7.25時点）

氏 名	ふじい おさむ 藤井 修 78歳 (昭和22年3月3日生)	推薦団体	広島県中小企業団体中央会推薦
		現住所	福山市東深津町
主な職歴	原設計株式会社 取締役会長 協同組合広島県東部設計センター 相談役 広島県中小企業団体中央会 理事	表彰歴	平成28年6月16日広島県中小企業団体中央会会長表彰（組合功労者） 令和元年11月7日全国中小企業団体中央会会長表彰（組合功労者）
主な功績	■ 協同組合広島県東部設計センターに関する功績 平成7年12月、協同組合広島県東部設計センターの理事に就任、理事長を補佐し組合の活性化及び効率的運営に寄与した。その功績から平成18年5月、副理事長に就任、同時に共同受注事業の拡大を期し、建築設計における予算・品質・規格・納期・契約履行上の管理など受注体制の再整備に尽力した。 平成22年6月、理事長に就任後は、国、県、市への一般競争入札参加資格の登録による受注機会の拡大に加え、平成23年に「官公需適格組合」の証明取得に奔走し、同年8月、証明を取得、入札参加資格登録において組合員各社では登録条件に及ばないAランクの審査決定を受け、共同受注事業における受注機会の増大を図った。 平成25年には、「改正建築基準法」（平成19年施行）により一定の高さ以上の建築物について「構造計算適合性判定制度」が導入され、建築確認・検査の厳格化による設計業務の仕様変更、監理業務の拡大の予兆から、技術研修会を集中的に実施し、構造計算並びに耐震改修設計など組合員の技術力向上に努め、広島県東部地区は構造計算に強い、という業界地位の礎を築いた。 これらの取り組みにより、官公需適格組合の証明取得後の共同受注事業の累計受注額は約2億円に達している。 組合員及び組合員企業からの信頼も厚く、持ち前の行動力で財務の健全化や共同受注事業の積極的展開に尽くした功績は大である。 ■ 広島県中小企業団体中央会に関する功績 平成22年6月広島県中小企業団体中央会（以下「本会」と言う。）理事に就任、その優れた見識をもって本会の事業運営、中小企業の振興に力を尽くした。 また理事就任から今日まで、本会の活動充実や価値向上に率先して取り組み、本会の3カ年計画である「広島県中央会ビジョン」策定において、共同事業運営の豊富な知見を活かして、既存組合の活性化や組合支援の方向性等等について、示唆に富んだ提言や助言を行い、アクションプラン策定に大きな役割を果たすなど、広島県内の中小企業の発展に大いに尽力した。 これら、本会と組合に対する長年の功績が認められ、平成28年6月広島県中小企業団体中央会会長表彰、令和元年11月には全国中小企業団体中央会表彰を受賞するなど、優れた見識により中央会の運営に貢献している。		

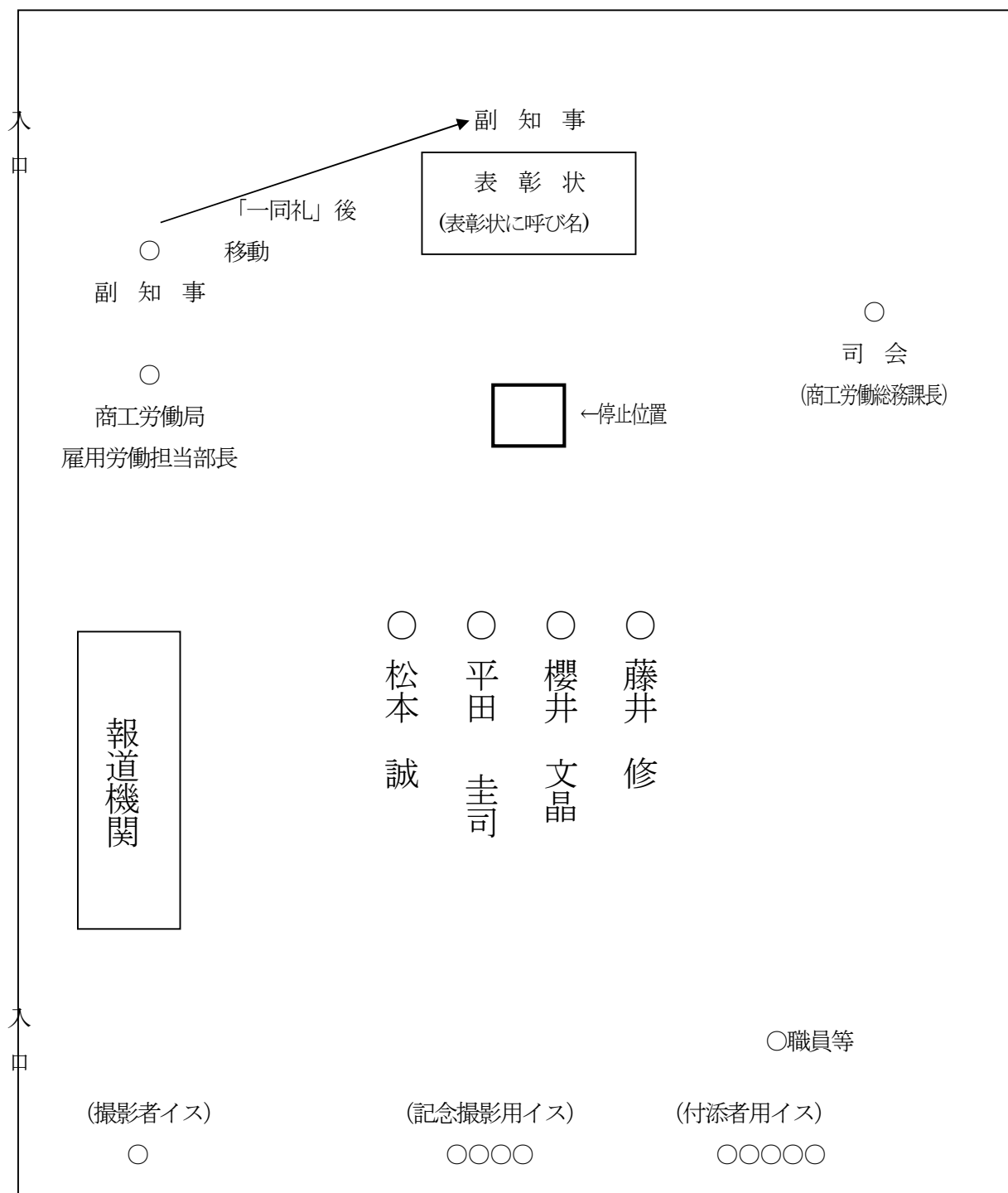
氏 名	さくらい ふみあき 櫻井 文晶 65 歳 (昭和 34 年 8 月 11 日生)	推薦団体	広島商工会議所推薦
		現 住 所	広島市西区
主な職歴	広島洋紙株式会社 代表取締役 広島商工会議所 常議員	表彰歴	なし
主な功績	■ 広島洋紙株式会社における功績 ①環境配慮と品質重視経営の推進 持続可能な社会の実現を見据えた経営方針を早くから実践し、環境と品質の両立に注力した。 ・平成 16 年 3 月 ISO9001（品質マネジメントシステム）と ISO14001（環境マネジメントシステム）を同時に取得し、企業としての品質保証体制と環境配慮体制を確立。 ・平成 20 年 3 月 FSC（森林管理協議会）による CoC（加工・流通过程の管理）認証を取得し、持続可能な森林資源の利用と責任ある流通の実現に貢献。 ②流通業と製造業の一体化による事業強化 流通だけでなく製造も内製化することで、企業の競争力と柔軟性を高めた。 ・平成 18 年 1 月 製袋事業を展開する杉谷商事株式会社の株式を 60%取得し、グループ化を開始。 ・平成 21 年 1 月 杉谷商事株式会社を完全子会社化。製造機能をグループ内に取り込み、経営の一体化を加速。 ・平成 26 年 5 月 杉谷商事の本社・工場を自社敷地内に移転し、物流や業務連携の効率化を実現。 ・平成 30 年 7 月 杉谷商事を吸収合併し、事業の完全統合を完了。グループ全体のシナジーを最大化。 ③人材育成と組織文化の改革 人材を「企業の財産」と捉え、社員一人ひとりの成長を支援する企業文化を構築。 ・社内において「ボトムアップ」の理念を掲げ、現場からの意見を尊重し、社員の主体性を促進。 ・成長意欲を支える仕組みづくりを進めることで、働き甲斐のある職場環境を整備。 以上「環境・品質」「事業構造改革」「人材育成」という 3 つの柱で広島洋紙株式会社の成長と変革を牽引した。 ■ 広島商工会議所に関する功績 広島洋紙株式会社は、創業期より広島商工会議所会員として地域社会への貢献と事業運営に協力。櫻井氏においては、平成 9 年に設立された「広島商工会議所青年部」に設立当初より所属、平成 14 年度には 300 名の会員を率いる会長としてリーダーシップを示すとともに、組織の基盤形成に大きく貢献。現在も OB として組織強化や全国の青年経営者が集う日本商工会議所青年部全国大会の広島開催（令和 9 年度）を控え、後方支援を続ける。 平成 16 年の広島商工会議所の議員（平成 22 年より常議員）就任後は、地域経済総合団体の役員として、「中小企業の活性化」「地域経済の活性化」の推進を図るため、商工会議所委員会事業（人材育成委員会・会員サービス委員会・街づくり委員会・運営委員会委員）に積極的に参画。同会議所「商業・流通委員会」では委員長として、小売業の活性化、並びに卸売業の革新、また中心市街地の振興に向けた実践策の探求など幅広い分野で取り組み、地域経済の活性化に大きく寄与している。 また、業種別の部会活動としては、商業部会副部会長として事業運営に携わり、中小企業の卸売業の発展に大きく貢献している。		

氏 名	ひらた けいじ 平田 圭司 61 歳 (昭和 38 年 11 月 24 日生)	推薦団体	広島県商工会連合会推薦
		現 住 所	江田島市大柿町
主な職歴	ヒラタコーポレーション株式会社 専務取締役 広島県商工会連合会 会長 江田島市商工会 会長	表彰歴	平成 24 年 5 月広島県商工会連合会会長表彰 平成 27 年 11 月全国商工会連合会会長表彰
主な功績	■ 商工会の運営並びに地域振興に関する功績 氏は、平成 18 年の大柿町商工会（現江田島市商工会）理事への就任以来、今日に至るまで、商工会運営・発展、地域のコミュニティーの持続・活性化に熱意をもって尽力してきた。 当市は、他地域と同様に人口減少と高齢化、社会構造の変化により過疎化が進行しつつあり、喫緊では高齢化による廃業が深刻な課題となっている。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響による企業の地方移転は当市において追い風になっており、IT 企業や食料品製造会社等の誘致が進んでいる。 この様な状況下、氏は、瀬戸内海の豊かな自然に恵まれた島嶼部という条件を活かし、地域資源を活用した観光消費額の向上に着手。 あわせて、市との共催による「創業塾」には、毎年 30 名前後の受講生が受講し、その中から毎年 5 名程度の創業者を輩出するなど、県内商工会でもトップクラスの実績を誇っている。 また、「西日本豪雨災害」や「新型コロナウイルス感染症」などの災害に見舞われた際には、氏が自ら先頭に立ち、行政に対し支援策の拡充を訴えと共に、支援施策並びに商工会の活用を事業者に広く訴えた。このことにより、これまで商工会を活用していなかった事業者が商工会を訪れ、経営相談などを通じて商工会加入のメリットを見出したことにより、それまで減少傾向にあった会員事業者数が、平成 20 年の江田島市商工会の発足以来はじめて純増に転じることとなった。 この様に氏は、長年にわたり中小企業振興・地域活性化に熱意をもって取り組んでおり、よって、こうした氏の功績が高く評価され、平成 24 年 5 月に広島県商工会連合会会長表彰（役員功労者）、平成 27 年 11 月に全国商工会連合会会長表彰（役員功労者）を受彰している。		
	■ 広島県商工会連合会の運営に関する功績 氏は、平成 30 年 5 月、芸南地域の商工会から絶大なる信頼を受け、県連合会の副会長に就任するや、人事管理委員会と商工会広域カード事業特別委員会の委員長を兼任すると共に、総務委員会委員として連合会・県内商工会の運営に関する施策を中心となって積極的に企画・実行してきた。 令和 3 年 5 月からは会長へ就任し、商工会組織の強化及び商工会連合会の地位向上に取り組んだ。就任当時、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の発出やまん延防止等重点措置などの活動制限により、日本経済にとって危機的な状況が続いていた。 この様な時こそ、事業者に寄り添った商工会の伴走型支援が重要であることを訴え、月次支援金や持続化補助金、雇用調整助成金など各種支援策の相談指導や資金繰りの支援、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた事業再構築の支援を積極的に行った。 その結果、同年に県内商工会に寄せられた相談は 8 万 2 千件を超え、支援機関としての商工会の認知度や重要性が高まり、県内全体の会員数が 20 年ぶりに増加することとなった。 この様に、氏は、目まぐるしい変化に晒された商工会組織を取り巻く内外の環境に対し、冷静沈着に状況を分析し、自らが創案した数々の改革の実行に際しては、熱意をもって粘り強く関係者への理解取得に当たり、今日の組織体制への変革に多大な貢献を果たしている。		
	■ 事業経営に関する功績 氏は、大学卒業後、平成 2 年 4 月に家業であるヒラタコーポレーション(株)へ入社。 同社は、氏の祖父が炭や練炭・薪などの燃料販売店として大正 13 年に創業して以来、100 年を超える長きにわたり、市民にとって欠かせないエネルギーの供給基盤を支えてきた。 具体には、戦後の生活様式の転換期に LP ガスの利便性に着目。広島県内で 10 番目となる取扱い事業所として、その普及を広く図り、市民生活の利便性向上に大きく貢献した。その後、モータリゼーションの到来に呼応しガソリンスタンドの営業を開始し、市民の重要な移動手段である自動車にとって欠かせないインフラを守ってきた。 少子高齢化の進展により人口減少が顕著な同市において、生活インフラの安定提供は必要不可欠であり、社是として掲げる「地域貢献」をまさに体現するその企業活動は、地域にとって、掛け替えの無い存在となっている。		

氏 名	まつもと まこと 松本 誠 59 歳 (昭和 41 年 5 月 13 日生)	推薦団体	廿日市市推薦
		現住所	廿日市市宮島町
主な職歴	宮島松大汽船株式会社 専務取締役 宮島町商工会 会長 広島地区旅客船協会 理事	表彰歴	令和 4 年 7 月中国運輸局長表彰 (功労) 令和 4 年 11 月全国商工会連合会会長表彰
主な功績	■ 宮島松大汽船株式会社の事業経営に関する功績 平成 3 年 3 月、宮島松大観光船有限会社 (平成 1 6 年 7 月宮島松大汽船株式会社に組織変更) に入社以来、海事業務全般に精励し、船舶乗組員のスキルアップ並びに船内作業環境の改善に尽力し、社業発展と従業員の福利向上に貢献した。 離島である宮島の宮島港と宮島口港を結ぶ旅客フェリー航路で、旅客並びに生活物資等を運ぶ島民の足として、長年に亘り離島振興に寄与した功績は非常に大きい。 平成 1 7 年 1 2 月、取締役運航部長に就任し社長を補佐するとともに、平成 1 8 年 1 2 月からは運航管理者、平成 1 9 年 1 2 月より安全統括管理者として安全運航に尽力した。 平成 2 5 年 6 月、常務取締役就任して以降、平成 2 9 年 5 月、新造船「安芸」の建造就航に当たっては、社会的要請に対応した施策の一環として、バリアフリー設備を充実するなど、利用者サービスの向上を図った。 ■ 広島地区旅客船協会に関する功績 平成 2 1 年 4 月、広島地区旅客船協会理事に就任、地区会員等との調整、利用者が減少するなか航路の維持確保に向け、関係機関への要請活動等に取り組み業界の維持発展に寄与した。		

表彰式配置図

(県庁北館2階第1応接室)



記念撮影配席図

(県庁北館2階 第1応接室)

